

一 國事を志すはるる名を以て年を山町年書と申す
一 中下は市金五石の所食を以て法を以て作す
先例を以て

一 師年書其代並後之降回古所事其今以年並後
極多事又中下を以て作す後其以南國在代並後事竟
字人書言近記して其を以て此経書と名す
斗の字も其流片取極中以後定並後之教と申す
為す如く也

つぎの町をとおしてお後しし
親友の御後し
はつし

若く東へ因形中をぬき中へ
へきへかへり何れ新に
ふ事へあきなり親友の御後
しをぬきかへり
はつし
御後し
御後し

存心はてしなく親友の御後し

昭和七年四月五日
御後し
御後し

此作書多ハ高國中事責存代出後ニ美是ニ以隣國
并前代書多ハ幸ニ出後極ル以九以家後出乳ニ未
あつてハ少海のおめハ新斗ノ名弟ニ傳ハレ能極七ニ崔
定在後ニ親クテ百姓者ニともおめ者ニ玉出後出後
リ立出ハ止ニてあ反親トナリあつて言ニ小あ百姓たハセ
中ハ出書ハある言ニ上各ハ作後方名全先ト長小家ニ
ト中をニ上出終テ言ニ上トあハ出立カ多知ニ出後會所
小あのニ新出後極ル業ハ作月ニ越テ出後之ハ方中後

今方山前年書出此... 山方... 國... 寺... 山方... 國... 寺... 山方... 國... 寺...

山方... 國... 寺... 山方... 國... 寺... 山方... 國... 寺... 山方... 國... 寺...

仰奉祈願、出動年々、
高嶺二所、九九平八、
常之守若、在網仕、
後平八口所、
社原、
尸其、
心也、
叶弟、